

## 為替週間展望 = ドル円は 107 ~ 108 円台でもみ合いか

[ 7月1日からの1週間の展望 ]

週間高低 (カッコ内は日)		6月24日 ~ 6月28日			
	始値	高値	安値	終値	前週比
ドル・円	107.39	108.16(27)	106.78(25)	107.68	+0.36
ユーロ・ドル	1.1360	1.1412(25)	1.1344(25)	1.1368	-0.0001

=====

国内株・金利 / 米国株・金利		終値		前週末比	
	終値	前週末比	終値	前週末比	
日経平均株価	21,275.92	+17.28	日本10年債利回り	-0.161	-0.005
ダウ平均株価	26,526.58	-192.55	米10年債利回り	2.014	-0.040

=====

< 来週の主要経済統計等 >

- 1日 日銀短観 (6月調査)
  - 中国6月財新製造業購買担当景気指数
  - スイス5月小売売上高
  - 独6月雇用統計
  - ユーロ圏5月雇用統計
  - 米6月ISM製造業景況指数、米5月建設支出
- 2日 豪中銀 (RBA) 政策金利
  - ユーロ圏5月生産者物価指数
- 3日 豪5月住宅建設許可件数、豪5月貿易収支
  - 米MBA住宅ローン申請件数
  - 米6月ADP雇用統計
  - カナダ5月貿易収支
  - 米5月貿易収支、米新規失業保険申請件数
  - 米6月ISM非製造業景況指数、米5月製造業受注
- 4日 豪5月小売売上高
  - スイス6月消費者物価指数
  - ユーロ圏5月小売売上高指数
  - 米国休場 (独立記念日)
- 5日 日本5月勤労者世帯家計調査
  - 日本5月景気動向指数速報値
  - 独5月製造業受注指数
  - 英6月HBS住宅価格
  - カナダ6月雇用統計
  - 米6月雇用統計
  - カナダ6月Ivey購買部協会指数

【前回のレビュー】米10年物国債利回りは低下傾向にあり、円買いにつながりやすく、株高による円売りは限定的となっており、ドル円は軟調な推移が継続するとした。ユーロドルはECBの緩和姿勢が圧迫要因となるものの、それ以上にドルの弱さの影響を受けて、堅調な推移になるとした。

【ドル円は一時107円割れもその後戻す】

25日にトランプ米大統領がイラン最高指導者ハメネイ師を対象とした制裁を発表したことに対してイラン側も態度を硬化させており、中東情勢への警戒感が高まった。また、トランプ米大統領が日米安保破棄の可能性に言及との米メディア報道もあり、リス

ク回避の円買いの動きからドル円は106.78円前後まで下落を見せた。なお、米10年物国債利回りは一時2%を割り込んだ。

25日のNY市場では、ハト派の代表格として見られているブロード・セントルイス連銀総裁が、次回のFOMCでの0.50%の利下げ期待は行き過ぎとけん制発言を行ったことを受けて、早期の大幅な利下げ観測が後退した。また、米連邦準備制度理事会（FRB）のパウエル議長は講演で、「短期的な指標に過剰反応しないことが大切」などと述べた。

過度な利下げ期待や警戒感が後退して、米10年物国債利回りは26日に2%台を回復しており、ドル円も107円台半ばまで戻している。27日の東京市場では、米中貿易協議の進展へ期待感から一時108円台を回復したものの、その動きが続かなかった。

ブロード・セントルイス連銀総裁は0.50%の利下げには否定的な見解を示したものの、市場の大方の見方では7月の0.25%利下げを見込んでいる。9月にも利下げに動くとの見方も根強く、ドルの上値を抑えたとみられる。一方で、20カ国・地域首脳会議（G20大阪サミット）で米中首脳会談を行う予定であり、この結果がポジティブなものとなるかが注目される。合意に向けて貿易協議を継続するとすれば、円売り要因となりそうだ。

ドル円は米中首脳会談や米国株や米長期金利の動きに左右されやすい展開が続くそうだ。米国株が堅調で大幅な円高は進みにくいとみられるが、円安も大きく進みにくい。このため、ドル円は107～108円台で一進一退の動きを見せることとなる。なお、7月の第1週は米雇用統計など注目度の高い経済指標が数多く発表される。米中首脳会談が良好な関係となれば、米経済指標にも反応しやすくなりそうだ。一方で、米中対立が深刻化するようだとポジティブな経済指標にも反応しにくくなるとみられる。ドル円の目先の予想レンジは、106.80～108.80円。

今後の日米の経済指標やイベントとしては、1日に日銀短観（6月調査）、米6月ISM製造業景況指数、米5月建設支出、3日に米MBA住宅ローン申請件数、米6月ADP雇用統計、米5月貿易収支、米新規失業保険申請件数、米6月ISM非製造業景況指数、米5月製造業受注、4日は米国休場（独立記念日）、5日に日本5月勤労者世帯家計調査、日本5月景気動向指数速報値、米6月雇用統計などがある。

#### 【ユーロドルは上げ一服】

米国での年内利下げ観測の高まりや21日に発表されたドイツの5月の製造業・非製造業購買担当者景気指数（PMI）の上振れなどを背景にユーロドルは上昇傾向で推移した。24日と25日には1.14ドルに乗せる場面も見られた。短期的に大きく戻した反動もあり、その後、1.14ドル台では上値は重く、上げ一服となっている。25日には独10年物国債利回りがマイナス0.33%に低下して、史上最低水準となったこともユーロの重石となった。

ユーロドルは1.14ドルの節目をいったん上抜いたことで、節目達成感から1.13ドル台を中心とするもみ合いが見込まれる。7月第1週は、独6月雇用統計、ユーロ圏5月雇用統計、ユーロ圏5月小売売上高指数、5日に独5月製造業受注指数などの発表があり、こうした統計の内容に左右されやすくなるとみられる。ユーロドルの目先の予想レンジは、1.1200～1.1450ドル。

日米以外の今後の経済指標やイベントは、1日に中国6月財新製造業購買担当景気指数、スイス5月小売売上高、独6月雇用統計、ユーロ圏5月雇用統計、2日に豪中銀（RBA）政策金利、ユーロ圏5月生産者物価指数、3日に豪5月住宅建設許可件数、豪5月貿易収支、カナダ5月貿易収支、4日に豪5月小売売上高、スイス6月消費者物価指数、ユーロ圏5月小売売上高指数、5日に独5月製造業受注指数、英6月HBO S住宅価格、カナダ6月雇用統計、カナダ6月IVEY購買部協会指数などがある。

（ミンカブ 佐藤昌彦）

※投資や売買については御自身の判断でお願いします。

---

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については伴線を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。